

令和3年度第1回地区医師会長会議



常任理事 照屋 勉



去る3月4日(金)新型コロナウイルス感染症は連日数百人規模の陽性者で高止まりの状況であったが、感染対策を徹底しWebを併用して地区医師会長会議を開催した。

会議では、「(1) 那覇市立病院医師会解散の件」について、宮里浩 那覇市立病院医師会長より、解散の経緯についてご説明があり、今後は那覇市医師会及び行政等とより密な連携を図り地域医療へ貢献していく等の方向性が示され、各地区医師会より更なる医師会の組織強化に期待する意見があった。「(2) 高齢者施設等における医療提供体制について」では、各地区医師会の取り組み状況が報告され、会員施設へのアンケート調査、各地区医師会の連携、地域行政、基幹病院等との連携が図られ各地区医師会において体制整備が進んでいる旨の報告があった。「(3) 小児のオミクロン株感染状況について」では、反ワクチン団体の活動が行われていることで混乱が生じないか懸念する意見があがった。その他、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻についてウクライナを支援する募金

活動の提案があり、各地区医師会と協力して進めることが確認された。詳細については、以下、報告書を参照いただきたい。

1. 開会

照屋勉 沖縄県医師会常任理事より開会が宣言された。

2. 挨拶

沖縄県医師会長 安里哲好

沖縄県のコロナ陽性者数は、10代以下の若年層の増加が顕著で本日を含め8日連続で前週を上回り再流行の様相を呈し、予断を許さない状況が続いている。先生方には大変ご苦勞をおかけするが、沖縄県の医療提供体制を維持すべく引き続き新型コロナウイルス感染症対策に御協力をお願い申し上げます。

本日は、那覇市立病院医師会より「那覇市立病院医師会解散の件」についてご説明いただいた後、「高齢者施設等における医療提供体制について」、「小児のオミクロン株感染状況について」各地区の現況報告をお願いしたい。

議題

(1) 「那覇市立病院医師会解散の件」

(那覇市立病院医師会)

宮里浩 那覇市立病院医師会会長より、解散の経緯について次のとおり説明があった。

那覇市立病院医師会として、あまり活発な事業活動を行えていない状況が続いている。那覇市立病院の責務は、「安全安心かつ高度で良質な医療の提供を継続すること。救急医療をはじめ、小児・周産期医療、がん診療、生活習慣病の早期発見や治療といった市民が求める医療、地域に根ざした医療の提供を通し、本市及び地域の医療水準の向上が図られ、市民の健康の維持・増進に貢献すること。」となっており、これらの責務を果たすには、那覇市医師会に加入した方が地域医療に貢献できると考えた。

前理事長の屋良先生の頃から検討を始め、昨年11月18日に当会総会を開催し解散の件を提案した。結果、反対は少数であったことを11月30日に全会員に報告した。

(2) 高齢者施設等における医療提供体制について (沖縄県医師会)

安里哲好 沖縄県医師会会長より、次のとおり説明があった。

去る2月7日(月)に開催された新型コロナウイルス感染症高齢者施設等対応に関する地区医師会との連絡会議では、施設内療養に係る医療提供体制について協議を行い、高齢者施設で陽性者が発生した際の対応については、まずは嘱託医やかかりつけ医が電話診療等による医療提供体制を整えることとし、嘱託医やかかりつけ医による対応が難しい場合には、地区医師会が窓口となる等の対応にご協力頂くことになっていたが各地区医師会の状況を伺いたい。

その後の取り組み状況について、各地区医師会より体制整備に向けた検討、調査等が進められている旨の報告があった。

(3) 小児のオミクロン株感染状況について

(沖縄県医師会)

宮里善次 沖縄県医師会副会長より、次の通り情報提供があった。

第5波までは、小児の感染はごく少数で中等症以上の入院もほぼ0に近かった。オミクロン株になって小児のパンデミックを経験している。感染者数や中等症以上の件数は資料のとおりで、0～9歳の年齢で死亡例はない、重症者は1例でその事例は5歳男児、中枢性無呼吸症候群、気管切開で呼吸管理され、肺炎が重症化して管理されている。中等症Iが17例(内5例が喘息)となっている。10～19歳の重症はなく、中等症Iは7例(内1例が心筋炎)年代によっても重症化が異なるので、ワクチン効果があるのかもしれない。

年齢階級別の陽性者数では、1位が10歳未満、次にその10歳未満の親と思われる30代(特に女性)が多く家庭内感染が疑われる。次に10代、次にその親世代の40代が多くなっている。幼年・若年層における推定感染経路ではそれぞれ「家庭」の割合が多くなっている。

小児で初めてのパンデミックとなるため小児の後遺症はわかっていない。沖縄県では3月からワクチン接種をはじめるとされていたが、4月に遅れている。可能であれば春休みの間にワクチン接種を終えて新学期を迎えてほしかった。

(4) その他

山城千秋 那覇市医師会会長より、現在、ロシアとウクライナで戦争が続いている。無謀な侵略戦争で市民が巻き込まれ悲惨な事態となっている。沖縄県は唯一地上戦が行われたことから、沖縄県から声をあげて会員に募金を募ってはどうかと提案があり、各地区医師会にご協力いただき募金を開始する方向で進めることが確認された。

閉会

照屋勉 沖縄県医師会常任理事より閉会が宣言された。